

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270202718
法人名	社会福祉法人 幼老育成会
事業所名	グループホーム 花ぞ野
所在地	〒857-0024長崎県佐世保市折橋町58-1 (電話) 0956-29-3111

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月5日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	8 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	66 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	千住病院・福田外科・やまさき歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム花ぞ野は山を切り開いた高台にあり、浴室から臨む景色は絶景である。地域の住民とは新興住宅地で、バーベキュー大会などで交流を図られている。その際の火花やスイカ割りには地域の子供達から非常に喜ばれている。近隣のお店も顔なじみの関係であり、地域に溶け込む努力をなされている。ホームは1階と2階が使われており、エレベーターもあるため車椅子での移動も楽である。当ホームの独自の取り組みとして入居者一人ひとりに「主人公の日」をつくり、本人が希望する場所へドライブしたり、食事の内容を工夫したりと入居者や家族に大変喜ばれている。当ホームの玄関口には入居者の笑顔の写真が紹介され、「ALWAYS SMILE」の理念のもと、職員も入居者も共に笑顔が印象的なホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の指摘を素直に受け入れられ、改善に取り組まれている。前回の改善課題としては職員を育てる取り組みがあり、外部研修の参加や法人内の研修を増やされた。また災害対策として消防訓練の実施などを通して地域の方々への協力を呼びかけられている。しかし改善計画シートに対しての記載方法などがまだ充分とは言えない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	平成20年12月より自己評価を職員一人ひとりに配られるなどの取り組みがなされている。しかし自己評価の質問内容が把握されているようには見受けられなかった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1度、運営推進会議を市町村担当者や民生委員など、地域の方を交えて行われている。その中で特に会議録がどのような意見交換が行われたかが分かり易く、今後につながる記録がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	定期的に「花ぞ野たより」を発行されており、入居者の生活状況や職員の紹介などを伝えられている。家族の意見を引き出す工夫としては提案箱の設置や面会時の声かけ、バーベキュー大会の際には無記名アンケートを用いて意見を尋ねられている。集計後は意見をまとめ、家族へフィードバックされている。「お小遣いの詳細をもっと詳しく知りたい。」という意見には、出納帳と領収書で説明をされるなど、臨機応変に対応がなされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣のコンビニエンスストアへ買い物をする事で顔馴染みの関係となっている。地域の小学生や中学生のボランティアの受け入れをすることで交流されている。昨年8月には法人内の小規模多機能事業所と合同で「焼肉パーティー」を開催した。地域にポスティングにより案内のチラシを配布し、当日は近隣の住宅地より子供連れの家族60人ほどに参加いただき、盛況であった。地域の方とのふれあいやホームを認知していただく有意義な取り組みとなった。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設当時の「ALWAYS SMILE(いつも笑顔で)」を利用され、地域の中で入居者が笑顔で暮らせることを意識し作り上げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて全職員が介護目標「1. 個人の尊厳を重視します 2. いつでも笑顔で優しい気持ちで接します 3. 地域と共にアットホームで楽しく暮らせるホームを目指します」を平成20年に作成され、具体的な支援の目標が出来て動きやすくなった。また職員の手書きで馴染みやすく、目に付きやすい場所への掲示や唱和をすることで日々念頭において介護に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のコンビニエンスストアへ買い物をする中で顔馴染みの関係となっている。地域の小学生や中学生のボランティアの受け入れをすることで交流されている。昨年8月には「焼肉パーティー」を開催した。地域にポスティングにより案内のチラシを配布し、当日は近隣の住宅地より子供連れの家族60人ほどに参加いただき、盛況であった。地域の方とのふれあいやホームを認知していただく有意義な取り組みとなった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成20年12月より自己評価を職員一人ひとりに配られるなどの取り組みがなされている。しかし自己評価の質問内容が把握されているには見受けられなかった。外部評価の指摘を素直に受け入れられ、改善に取り組まれているが、改善計画シートに対しての記載方法などが充分とは言えない。		今後は自己評価でグループホームに求められていることの理解を深める取り組みとして、全職員でディスカッションを深めながら意見を引き出される事が望まれます。さらに改善計画シートでは目標に到るまでのプロセスをより明確にすることに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を市町村担当者や民生員など、地域の方を交えて行われている。その中で特に会議録がどのような意見交換が行われたかが分かり易く、今後につながる記録がなされている。		

グループホーム 花ぞ野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは介護保険や権利擁護などの情報を尋ねるなどで行き来する機会を作られている。また連絡協議会へ担当者に足を運んでもらうなど、共に質の向上にとりくまれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季刊で、法人内の小規模多機能施設と合同で「花ぞ野たより」を発行されており、入居者の生活状況や職員の紹介などを伝えられている。また金銭管理に関しても領収書を渡され、出納帳を確認していただいている。面会時に本人の様子などを報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を引き出す工夫としては提案箱の設置や面会時の声かけ、またバーベキュー大会後はお礼の挨拶かたがたアンケートに協力いただいた。集計後は意見をまとめ、家族へフィードバックされている。お小遣いの詳細をもっと詳しく知りたいという意見には出納帳と領収書で説明をされるなど、臨機応変に対応がなされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で定期異動が年に1度行われている。また2ユニット間の職員配置を固定せず、行き来することで入居者と顔なじみの関係が全職員が出来ており、臨機応変な対応が可能となっている。職員の異動や離職の際は入居者や家族に「花ぞ野たより」などで紹介や説明をされている。馴染みの関係を考えられ、離職を減らす工夫として職員同士の食事会などで良好な関係性を構築されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回は外部研修への参加を勧められ、出席者の参加費用などは事業所が出されている。その際参加者は報告会で研修内容を報告されている。今年度は前年度よりも研修参加が増えた。また新人・中堅とそれぞれの研修のカリキュラムが組まれており、職員の段階に応じた育成計画が建てられている。また内部研修は各ユニットごとや法人全体で毎月1度行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市グループホーム連絡協議会に所属されている。基礎研修や様々な疑問があれば気軽に相談できる関係を築かれている。		

グループホーム 花ぞ野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>当ホームに見学に来ていただいたり自宅訪問することで入居予定の方の心情を考慮し、無理なくホームへ来ていただくように工夫されている。また体験入居の用意もある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と一緒にソファに寄り添いながら座り、同じ時を過ごしてみたり、歌を一緒に唄うことで入居者と喜怒哀楽を共にされている。また調理の味付けなどを習うなど、支え合う関係性を築かれている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の意向を知るべく、入居者の日々の出来事を日誌に書かれている。そして一人ひとりに聞き取りをすることで希望を聴き、困難な方には家族と相談されている。また重要なことは連絡ノートで職員に知らせており、確認後サインをすることで、全職員が把握する様、促されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は入居者本人と家族の意見を伺いながら作成されている。また職員1名で2名の入居者を担当し、生活の中から見出した気づきが介護計画書に盛り込まれており、取り組みやすい介護計画書となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に3ヶ月に一度介護計画を見直されている。また介護計画の期間は明確に記載されており、期日を意識した取り組みがなされている。毎月ケア会議を開かれており、状態を診ながら状況に応じた介護計画の見直しがなされている。</p>		

グループホーム 花ぞ野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「主人公の日」を入居者の誕生日に行い、お寿司を食べたいと希望されれば回転寿司へ一緒に食べに連れて行かれている。また毎月2回、法人内の理学療法士によるリハビリの支援を受けられる。また当ホームが高台にあるため、近くのバス停から法人のシャトルバスが1日4便出ており、家族の送迎をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりのかかりつけ医の関係を大切にされ、入居者の個々のバイタルや受診記録を用いながら取り組まれている。また提携されている花ぞ野診療所を希望されれば応じている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームとしてターミナルケアをどのように取り組むか、ということの方向性ははっきりしており、基本的には病院などの対処先を用意されている。また過去には当ホームでターミナルケアを1度経験されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などは事務所に保管されている。入居者への言葉遣いも優しく声かけされていた。接遇については毎年1度勉強されており、職員同士でも気がついたらお互いに注意されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩、郵便局へ出かけるなど、一人ひとりがその人らしく生活できるように支援されている。また美容院へ出かけるのもメンタルケアとして大切に考えられており、馴染みの客との会話を楽しむことでリラックス出来るように送迎されている。		

グループホーム 花ぞ野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も食事を共にとっており会話しながらの楽しい食事風景であった。配膳や下膳、茶碗洗いや調理も出来る方には手伝っていただき、楽しみながら食事をとられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎週2回の入浴支援ではあるが、入居者が希望されれば毎日の入浴が可能である。今年度より浴室にはリフトが設置されており、入浴介助が楽になることでゆとりをもって会話するなど、楽しく入浴が出来るように配慮されている。入浴されない時は清拭や部分浴を行うことで、清潔保持の支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯ものたたみや掃除など、入居者同士が互いに助け合いながら和やかに共同生活されている。また体操やカラオケ、しりとりなどで日々楽しく過ごされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのコンビニエンスストアへ買い物に出かけたり、散歩や郵便局など、日常的に戸外に出られている。またベランダに出て景色を楽しみながら外気浴がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	時間帯によって職員数が足りない時は、一時的に鍵を掛けることもあるが、基本的に昼間は鍵を掛けることがない。そのため入居者は自由に出入りできる。また入り口にはチャイムが取り付けられ、各ユニットで見守りを連携されたり地域の方から連絡をいただいたりと、安全に生活できるよう支援がなされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を年に2回行われており、夏祭りの際に地域の方へ火災や自然災害に遭った時の協力をお願いするなど、災害対策には万全を尽くされている。断水の際には貯水タンクがあり、非常時にはオムツやゴム手袋の備蓄が用意されている。		

グループホーム 花ぞ野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内に所属されている栄養士の方に献立をみてもらい、栄養バランスなどを考えられ、入居者の健康を確保されている。減塩食などの支援も行われている。水分は1日の平均として1リットル以上の摂取を考えられており、脱水症状にならないよう注意されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には可愛い花が植えてあったり、2回のエレベーター前にはジュースの販売機が設置され、入居者や家族が楽しく利用できるように作られている。室内は楽しそうな行事の写真が飾られて温かな雰囲気であり、適度な明るさである。また食堂兼リビングにはソファがあり、入居者がゆったりとした雰囲気でくつろがれているなど、居心地の良い工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋に洗面台が用意されており、乾燥する季節には洗面台に水を張ることで保湿されている。入居者が仏壇やベッドなどを持ち込まれており、その人らしい雰囲気のある居室となっている。		